

題材デザイン FIRST STEP ―中学校音楽科―

PDCA サイクルを意識した授業改善 R7 版

1 PDCAサイクルを意識した題材デザインについて

- 題材デザインは、学習指導要領に示された資質・能力の育成を目指し、指導と評価の一体化を図るための重要なプロセスです。
- PDCAサイクルにおけるPlanの段階として、題材を通して育成する資質・能力を明確にし、指導と評価の計画を作成することが重要です。
- さらに、PDCAサイクルを意識した授業改善において、CheckとActionの段階で得られた学習成果や課題の振り返りを次のPlanへ反映させることで、より質の高い題材デザインにつなげることができます。



2 題材をデザインする際のポイント

題材をデザインする際のポイントについて、以下の手順を例に示します。



Step1 題材を通して育成する資質・能力を明確にし、**題材の目標**を立てます。

Step2 題材を通して育成する資質・能力を身に付けることができるようにするために、**授業をデザイン**します。

Step3 **題材の指導と評価の計画**を作成します。

Step4 各時間の**学習内容**や**学習活動**を考え、各時間のねらいに沿って、適切に音楽活動を位置付けます。

3 題材デザインの具体

第3学年「絵画とのつながりを感じながら、音楽の響きの変化を味わおう」（B鑑賞(1)鑑賞）を例に

Step1 題材を通して育成する資質・能力を明確にし、**題材の目標**を立てます。

- アンケートや振り返りなどの学習履歴を活用し、生徒の実態を把握します。

感受することはできるようになってきているけれど、知覚することはまだ苦手みたいだな

鑑賞の学習に楽しく取り組むことができるようにしたいな

音楽を聴いて、知覚したことと感受したことの関わりについて考えることができるようにしたいな



- 中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 音楽編（以下、学習指導要領解説）を基に、「A表現」については、ア、イ及びウの各事項を、「B鑑賞」については、ア及びイの各事項を適切に関連させ、【共通事項】ア及びイを位置付けます。

	(1) 鑑賞の活動を通して、次の事項を身に付けることができるようにする。
思考力、判断力、表現力等	ア(ア) 曲や演奏に対する評価とその根拠
知識	イ(ア) 曲想と音楽の構造との関わり イ(イ) 音楽の特徴とその背景となる文化や歴史、他の芸術との関わり
【共通事項】ア	音色、旋律、テクスチャ

- 題材を通して育成する資質・能力を明確にし、題材の目標を設定します。

♪題材の目標

- (1) 組曲「展覧会の絵」の曲想と音楽の構造との関わり及び音楽の特徴とその背景となる絵画との関わりについて理解する。

知識及び技能

- (2) 組曲「展覧会の絵」の音色、旋律、テクスチャを知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えるとともに、曲や演奏に対する評価とその根拠について考え、音楽のよさや美しさを味わって聴く。

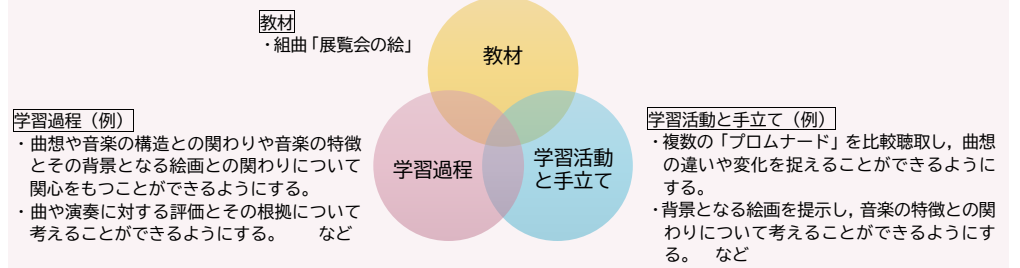
思考力、判断力、表現力等

- (3) 組曲「展覧会の絵」の音楽の特徴と絵画との関わり及び曲想と音楽の構造の違いによる音楽が生み出す雰囲気や表情などの変化に関心を持ち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組む。

学びに向かう力、人間性等

Step2 題材を通して育成する資質・能力を身に付けることができるようにするために、**授業をデザイン**します。

- 題材を通してどのように学ぶかについて、教材、学習過程、学習活動と手立ての3つの視点で整理します。



Step3 **題材の指導と評価の計画**を作成します。

- 題材の評価規準を作成します。

♪題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
知① 組曲「展覧会の絵」の曲想と音楽の構造との関わりについて理解している。 知② 組曲「展覧会の絵」の音楽の特徴とその背景となる絵画との関わりについて理解している。	思① 組曲「展覧会の絵」の音色、旋律、テクスチャを知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えている。 思② 曲や演奏に対する評価とその根拠について考え、音楽のよさや美しさを味わって聴いている。	態 組曲「展覧会の絵」の音楽の特徴と絵画との関わり及び曲想と音楽の構造の違いによる音楽が生み出す雰囲気や表情などの変化に関心を持ち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

□ 題材の指導と評価の計画を作成します。

時	◆学習のねらい	○学習内容	・学習活動	評価			評価方法
				知	思	態	
1	◆組曲「展覧会の絵」の複数のプロムナードを比較聴取し、音楽の特徴や構造に着目して曲想の変化を捉え、その関わりについて理解するとともに、音楽と絵画とのつながりに関心をもつ。						
	<p>○音楽と絵画の関わりについて考え、本題材の学習の見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none">・これまでの学習や生活を振り返り、音楽と絵画の関わりについて、自由に意見交流をする。・本題材の学習の見通しをもつために、題材（全3時間）の学習の流れを知る。 <p>○複数の「プロムナード」の音楽の特徴と曲想の変化に関心をもつ。</p> <ul style="list-style-type: none">・冒頭の「プロムナード」について知覚・感受したことを基に、ほかの複数の曲の「プロムナード」を比較聴取する。 <p>○複数の「プロムナード」の音色、旋律、テクスチャなどの特徴を捉えながら、曲想と音楽の構造との関わりを理解する。</p> <ul style="list-style-type: none">・複数の「プロムナード」を比較聴取したことを基に、音楽の特徴と曲想の変化について、ワークシートに書く。・ワークシートの記述を基にして意見交流を行い、新たに気付いたことや感じたことなどを書き加える。 <p>○複数の「プロムナード」の前後に当てはまる絵画を予想し、音楽と絵画とのつながりについて考える。</p> <ul style="list-style-type: none">・複数の「プロムナード」について知覚・感受したことを基に、前後に当てはまる絵画を予想する。また、予想した絵画からどのような音楽が作曲されたかについて想像する。 <p>○本時の振り返りをする。</p> <ul style="list-style-type: none">・ワークシートに振り返りを書く。			知 ①			観察、ワークシート
				1 単位時間ごとの評価規準を基に、観察やワークシートの記述などを材料にして、 〔指導に生かす評価〕 を行います。			
2	◆組曲「展覧会の絵」の中の複数の曲想と音楽の構造との関わりについて理解し、音楽の特徴と絵画との関わりについて考える。						
	<p>○前時の学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none">・前時のワークシートの記述を基に、学習の見通しをもつ。 <p>○作曲の背景について知る。</p> <ul style="list-style-type: none">・作曲の背景となるムソルグスキーとガルトマンの関係性について知る。 <p>○第2曲「古城」、第4曲「ビドロ」の曲想と音楽の構造との関わりを理解し、どの絵画を表した音楽なのかを考える。</p> <ul style="list-style-type: none">・曲名を伏せて第2曲「古城」、第4曲「ビドロ」聴き、それぞれの音楽について知覚・感受したことをワークシートに書く。・ワークシートの記述を基に、当てはまる絵画を予想する。また、曲名と作曲の背景を知る。 <p>○本時の振り返りをする。</p> <ul style="list-style-type: none">・ワークシートに振り返りを書く。			知 ②	思 ①		観察、ワークシート
				1 単位時間ごとの評価規準を基に、観察やワークシートの記述などを材料にして、 〔記録に残す評価〕 を行います。			
3	◆組曲「展覧会の絵」を鑑賞し、曲や演奏に対する評価とその根拠について考え、音楽のよさや美しさを味わって聴く。						
	<p>○前時の学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none">・前時のワークシートの記述を基に、学習の見通しをもつ。 <p>○組曲「展覧会の絵」について知る。</p> <ul style="list-style-type: none">・作曲者、作曲の背景、時代背景について知る。 <p>○音楽と絵画との関わりについて自分の考えをまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none">・組曲の構成に着目し、複数の「プロムナード」の役割や効果、作曲者はどのような思いで作曲したかということについて自分の考えをまとめ、意見交流をする。 <p>○本題材の振り返りをする。</p> <ul style="list-style-type: none">・ワークシートに本題材の振り返りを書く。			思 ②	態 ②		観察、ワークシート

1 単位時間ごとの評価規準を基に、観察やワークシートの記述などを材料にして、〔指導に生かす評価〕を行います。

1 単位時間ごとの評価規準を基に、観察やワークシートの記述などを材料にして、〔記録に残す評価〕を行います。

Step4 各時間の学習内容や学習活動を考え、各時間のねらいに沿って、適切に音楽活動を位置付けます。

□ 各時間のねらいに沿って、適切に音楽活動*を位置付けます。

*表現及び鑑賞の幅広い活動、いわゆる音楽活動は、題材を通して育成する資質・能力を身に付けるための手段です。



POINT

小学校、中学校、高等学校における音楽の学習は、音楽活動を通して行われることが前提です。このことは、教科の目標に「表現及び幅広い活動を通して」（中学校）などのように示されています。題材をデザインするに当たって、「教師が生徒にとってよい経験になるであろう音楽活動を設定し、その活動を生徒の経験にすることができる場」とするのみではなく、「生徒が、何をどのようにして学ぶのかを考え、そのために必要な活動を設定し、生徒が自ら学んでいくことができる場」とすることがポイントです。

中等教育資料（平成29年5月号）を基に作成

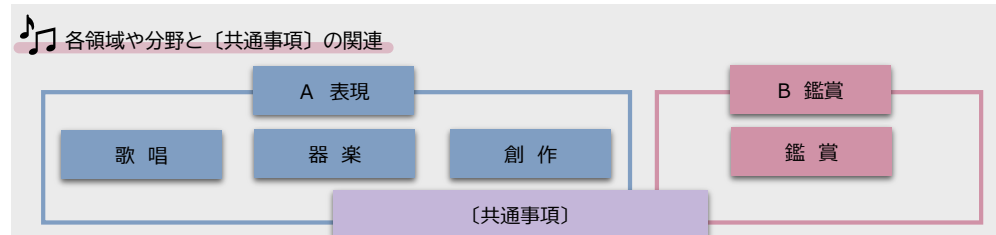


STEP UP

生徒にとって学びがいのある授業づくりを行うために

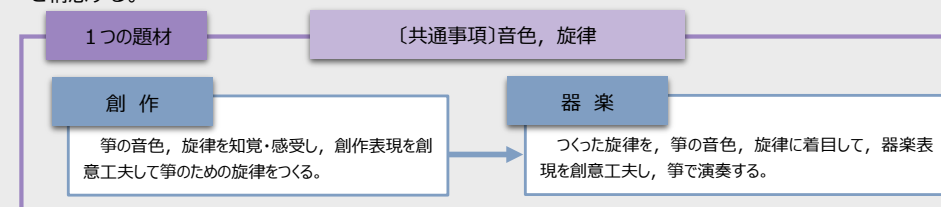
音楽科の教科の目標に「表現及び鑑賞の幅広い活動を通して」とあるように、生徒にとって学びがいのある授業づくりを行うためには、歌唱、器楽、創作、鑑賞の活動をバランスよく行うことができるような計画を作成することがポイントです。

学習指導要領解説 p.95 では、指導計画の作成に当たって、歌唱、器楽、創作、鑑賞について、それぞれの特定の活動に偏ることのないように配慮すること、また、必要に応じて、〔共通事項〕を要として、歌唱、器楽、創作、鑑賞の各学習の関連を図るよう配慮することと示されています。

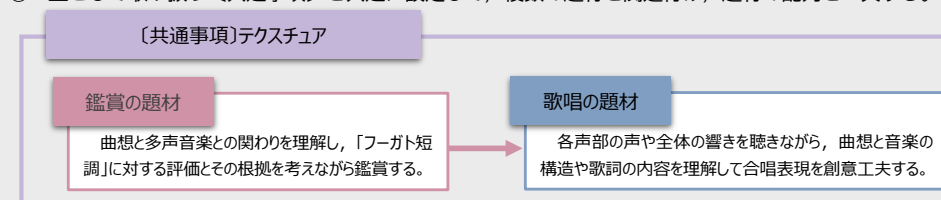


各領域や分野の関連を図ることの事例

① 題材の中で主として取り扱う〔共通事項〕を共通に設定して、複数の領域や分野の関連を図った1つの題材を構想する。



② 主として取り扱う〔共通事項〕を共通に設定して、複数の題材を関連付け、題材の配列を工夫する。



副島和久著：「新学習指導要領の展開 音楽編」p.71 を基に作成

*一単位時間の授業や題材で得られた振り返りや課題を踏まえ、次時や次題材のPlanへ反映させるようにします。